

開会挨拶



一般社団法人 J A 共済総合研究所 理事長

吉村 馨

皆さん、こんにちは。主催者を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

本日は、J A 共済総研セミナーに会場で実参加いただいている皆様、そしてオンラインで参加していただいている皆様、大変ありがとうございます。また、東海大学の濱田教授には大変お忙しいなかお時間を割いて、基調講演をいただきます。厚く御礼申し上げます。

本日のテーマは、「地域の協同で『農』と『くらし』を守る」です。昨年（令和6年）10月に

最近、色々な場面で農村型地域運営組織（農村RMO）というものが取りあげられています。本日、濱田先生から詳しくご説明いただけるものと考えております。実は私も農村RMOについて15年ぐらい前から関わってきておりまして、少しお話をさせていただきます。

本年度の農林水産祭のむらづくり部門で天皇杯を受賞した「えーひだカンパニー」（島根県安来市^{*2}）は典型的な中山間地域で農村RMOの活動をしている株式会社です。ここは農業部門の取組みをしっかりとやっていることが特徴の一つです。

農村RMOの活動を見てみますと、多くはやはりお祭り、あるいは高齢者の交流ということが中心で、農村という名前がついているのですが、農業に関する取組みを行っているところは必ずしも多くありません。「えーひだカンパニー」さんも、夏祭りや直売所、カフェ、移動

第30回J A 全国大会が開かれました。3年に1回の大会で、協同活動と総合事業で食と農を支え、豊かなくらしと活力ある地域社会を実現することが決議されました^{*1}。本日のテーマも大会決議に沿ったものと考えております。私どもは大会決議を踏まえた形で、いくつかのJ A の皆様と一緒に、農を守る、くらしを守る取組みを実践しております。本日はその内容をご紹介します。よろしくお願いいたします。

農村地域の農とくらしを守る取組みとして、

販売、温泉経営など多様な取組みをしています。しかし一方で農業では「比田米プロジェクト^{ひだまい}」として、水稻の育苗、ドローン防除、堆肥散布、米の収穫、販売、さらには小規模ですが、水稻の生産もやっています。

先日、その活動報告をお伺いする機会がありました。これだけ農業の活動を色々行っているのですが、報告のなかでJ A という言葉が出てきたのは、水稻の育苗をJ A から受託しています、という部分だけだったのです。ちょっとショックを受けました。

実は私も農村RMOに多少関わってきたと申しましたが、考えてみると、農村RMOとJ A の結びつきが弱いことについては、私自身もちょっと責任があるのではと反省しております。

その点について少しだけ話をいたします。今から15年ぐらい前、私は農林水産省の農村振興局に籍を置いておりました。当時の大臣が石破

農林水産大臣、今の総理だったのですが、大臣のご指示の下、農村RMOの予算と制度づくりを検討しております。

石破大臣は地域の集落が非常に厳しい状況に置かれていることを体験されておりまして、それを守る取組みの一つの柱として、農村RMO、当時は「地域マネジメント法人」、略して「地マネ」を検討しようということでした。

実はその過程で、大臣から、JAが農村RMOの役割を担うことを検討してみたらどうかという話があったのです。そこで100ぐらいの農村RMO、あるいはその萌芽になるような事例を調べましたが、JAが関わっている例はほとんどなく、確か1件しかなかった。結局JAの関わりについてはあまり検討しないまま、予算、それから制度を検討していったということがありました。

さらにいうと、その背景にはやはり、JAのローンの代行サービス、さらには移動手段の確保といったことの検討、実践といってもよいですが、これを進めております。後ほどその内容について、ご報告をさせていただきます。

本日のセミナーが、農村RMOに限らず、JAが「農」と「くらし」を守る役割を少しでも果たしていくことにつながる一つのきっかけになることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

経営が厳しいなかで、あまりお金にならないことにJAを巻き込むのはどうかという思いがあったのも事実です。これは私だけというよりも、皆で多少共有している部分はあったかもしれません。

最終的にこの農村RMOの予算と制度づくりは、その後政権交代があつて、事業仕分けがあつて、結果として白紙になってしまいました。これも残念なことではありましたが、のちにそのまま別の形で、これが取りあげられるようになったわけでありませぬ。

ただ、現時点で考えても、JAの経済事業、営農指導、信用事業、そして共済事業と多少違う形で地域づくりに関わっていくのは、なかなかハードルが高い部分があります。そういうなかで、私どもJA共済総研も少しお手伝いをさせていただきますながら、JAによる農業者と地域住民との結びつきを強める、あるいは農業用ド

(*1) JAグループ「第30回JA全国大会決議 組員・地域とともに食と農を支える協同の力」協同活動と経営事業の好循環」令和6年10月18日

JAグループウェブサイト

https://org/ja-group.jp/pdf/jataikai/jataikai_resolution_30.pdf

(*2) えいひだカンパニーは平成29年3月設立。鳥根県安来市比田地域において、中山間地における自立した地域づくりを目指し、自治機能と生産機能を有する株式会社。令和6年度(第63回)農林水産祭天皇杯・むらづくり部門を受賞。

えいひだカンパニーウェブサイト

<https://e-hida.co.jp/>

農林水産省ウェブサイト

<https://www.naif.go.jp/j/press/kambo/bunshyo/attach/pdf/241002-1.pdf>